

完了後の評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	平成21年度～平成25年度（5年間）																
事業実施地区名 （都道府県名）	あばしりせいぶ 網走西部森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走西部森林管理署																
完了後経過年数	4年	管 理 主 体	網走西部森林管理署																
事業の概要・目的	<p>本事業は、北海道の中央からやや北の内陸部に位置し、オホーツク総合振興局管内北西部の2町に所在する国有林約106千haを対象としている。</p> <p>人工林面積は約28%にあたる約30千haで、そのうち間伐の対象となる林分が約7割となっており、今後は主伐対象となる林分も増え、併せて更新面積の増加が見込まれることから、森林整備の重要性が高くなっている。</p> <p>大部分の森林は水源かん養保安林に指定されており、湧別川等河川の源流部や武利ダムの集水域、芭露や清里、金山西部の水源地周辺の森林となっていることから、地域の水源として、生活用水の供給源となるとともに、基幹産業である農業及び水産業の振興に資するなど重要な役割を担っている。また、山地災害危険地区（地すべり危険地区）に指定されている区域もあり、山地保全の役割を果たすことが求められている。</p> <p>従来から豊かな森林資源を利用して林業・木材産業が発達してきたところであり、近年は、森林認証の取得を拡大し、森林の整備、加工流通体制の整備等を進めるとともに、オホーツクブランド材の普及に向けた取組も行われていることから、今後も木材の安定供給を通じ、地域産業の振興に寄与することが期待されている。</p> <p>一方、網走国定公園のほか、丸瀬布温泉等の温泉施設、十三の滝、山彦の滝等豊かな森林景観と豊富な観光資源に恵まれている地域があることから、登山や森林散策等のレクリエーションの場として多くの人々に利用されている地域である。</p> <p>本事業では、これらの地域の期待に応えるとともに、地球温暖化防止等森林の有する多面的機能の発揮のために必要な、植栽等の更新作業、間伐等の保育作業及び効率的な森林整備を推進するための路網整備を実施したものである。</p> <p>・主な事業内容：</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">森林整備</td> <td style="width: 10%;">更新</td> <td style="width: 10%;">面積</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">33 ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>保育</td> <td style="text-align: right;">5,553 ha</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>開設</td> <td>延長</td> <td style="text-align: right;">7.7 km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>改良</td> <td>延長</td> <td style="text-align: right;">0.6 km</td> </tr> </table> <p>・総事業費 3,202,273 千円（税抜き 3,049,784 千円）</p>			森林整備	更新	面積	33 ha			保育	5,553 ha	路網整備	開設	延長	7.7 km		改良	延長	0.6 km
森林整備	更新	面積	33 ha																
		保育	5,553 ha																
路網整備	開設	延長	7.7 km																
	改良	延長	0.6 km																
① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成30年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、事前評価で算出した総便益又は総費用と、完了後の評価で算出した総便益又は総費用との差異については、切捨間伐から搬出間伐に移行したことによる大幅な事業量の増加や人件費単価の上昇及び林野庁における統一的な算定方法の変更によるものである。</p> <p>総 便 益（B） 17,924,210 千円（平成20年度の評価時点：8,908,025 千円※）</p> <p>総 費 用（C） 6,878,964 千円（平成20年度の評価時点：1,891,246 千円※）</p> <p>分析結果（B/C） 2.61 （平成20年度の評価時点：4.71 ※）</p> <p>※平成20年度評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。</p>																		
② 事業効果の発現状況	<p>・更新・保育によって森林が整備されたことにより、水源涵養や山地保全、炭素の固定による地球温暖化防止等、森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。</p> <p>・開設及び改良によって林道が整備されたことにより、木材の搬出距離・経費の縮減及び木材搬出用トラックの通行量の増加に対応した路網整備を行ったことで効率的な木材生産が図られた。</p>																		

	<ul style="list-style-type: none"> ・林業事業者に対する計画的な事業の発注等を通じ、雇用の場を提供して、地域の社会経済に貢献した。
③ 事業により整備された施設の管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・整備された森林の林況は、継続して適切に管理されており、良好である。 ・整備された林道は、良好に維持・管理されている。
④ 事業実施による環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備事業の実施により、水源涵養や山地保全などに応じた森林が形成され、それぞれの役割が果たされている。 ・周囲の森林と調和した適切な森林施業は自然景観の保持に役立ち、森林資源の充実のほかレクリエーション・保健休養等の保健文化機能を充実させている。
⑤ 社会経済情勢の変化	<p>本地域の経済情勢は、大きく変動している部分は見られないが、地域特性を生かし、寒冷地畑作及び酪農を主体とした農業が展開されている。また、沿岸域では、沖合底引き網、ホタテ貝及びサケ定置網を中心とした漁業と、湖沼を利用した養殖漁業が盛んである。</p> <p>本地域における人口は、年々減少傾向にあり、そのうち林業就業者数も、平成17年度の270人から平成27年度には203人に減少しており、北海道内の傾向として他産業に比べ60歳以上の高齢者の割合が高く、今後増加する森林整備を担う人材が確保されているとは言い難い。</p> <p>こうした状況の中、効率的で生産性の高い高性能林業機械を含む機械作業システムの導入が促進されており、さらには森林施業に資する林業専用道及び森林作業道の連結によって効果的な森林施業を推進する必要がある。</p>
⑥ 今後の課題等	<p>森林の有する多面的機能を高度に発揮させるため、事業計画に基づいて着実に事業を実施することが必要である。</p> <p>さらに、丈夫で簡易な路網整備に取り組むとともに、伐採と造林の一貫作業や植付効率の向上等の効果が期待されるコンテナ苗の導入を図り、低コストで効率的な作業システムの確立のほか、有用広葉樹の天然更新木を活用した針広混交林への誘導等多様な森林整備を行うことが重要であると考えている。</p> <p>なお、今般の事業実施に関する事業対象区域の地元意見は以下のとおりとなっている。</p> <p>(北海道)</p> <p>森林整備事業及び路網整備事業の実施により、森林の有する多面的機能の維持増進が図られたと認識している。今後とも道との一層の連携のもと、森林整備を推進していただきたい。</p> <p>(遠軽町)</p> <p>遠軽町は国有林が町全面積の7割以上を占めており、本町の産業にも影響が大きく、森林の有する多面的な機能の発揮と良好な森林が造成され、適切な森林整備が実施されたことは高く評価しております。</p> <p>今後も水源地周辺地域をはじめとした森林機能の維持・推進とともに、木材の安定的な供給が図られることを期待いたします。</p> <p>本町では、町全域を「白滝ジオパーク」として認定されており、国有林においても保健・文化・教育の場としての機能も期待しているところであり、今後においても国有林の総合的な整備を進めて頂けますよう、お願い申し上げます。</p> <p>(湧別町)</p> <p>本町の国有林はサロマ湖及び芭露川水系などの河川上流部に所在しており、森林整備が実施されたことにより、森林の有する多面的機能の発揮と良好な森林が造成されたことは評価出来る。</p> <p>特に水源涵養機能は本町の基幹産業にも影響が大きいことから、今後についても適切な国有林の整備を要望したい。</p>
森林管理局事業評価技術検討会の意見	<p>本事業の実施により、水源涵養や山地保全等の森林の持つ公益的機能の維持増進が図られてきており、事業の効果が発揮されていると認められる。</p>

<p>評価結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・ 必要性</p> <p>本地域は、大半が水源かん養保安林に指定されており、また、地域の基幹産業である農業及び沿岸部や湖沼を利用した漁業等に対する水質の保全に配慮した施業実施が求められている地域であり、更に、山地保全や地球温暖化防止対策、木材の安定供給、保健文化機能の維持等に寄与する観点からも事業の必要性が認められる。</p> <p>・ 効率性</p> <p>事業採択時に比べ、B/Cは低減したものの、現地の地形・地質状況に適した工種及び作業仕様での路網の開設・改良によって森林整備実施箇所へのアクセスが向上した他、森林整備においても現地の状況に応じた更新・保育作業を効率的に行うことによりコストの増加を抑えており、費用便益分析の結果からも、事業の効率性が認められる。</p> <p>・ 有効性</p> <p>本事業の実施により、森林の有する多面的機能が発揮され、引き続きその効果が発現されるものと見込まれる。</p> <p>また、これらの直接的な効果のほか、地域の基幹産業である農業や漁業に対しても、山地保全や水質浄化等の機能の向上を通じてその振興に寄与しており、事業の有効性が認められる。</p>
-------------	--

便 益 集 計 表
(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：北海道

施行箇所：網走西部森林計画区(網走西部森林管理署)

(単位:千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	3,479,250	
	流域貯水便益	1,048,389	
	水質浄化便益	2,241,596	
山地保全便益	土砂流出防止便益	6,024,028	
環境保全便益	炭素固定便益	1,763,739	
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	191,988	
	木材利用増進便益	320,145	
	木材生産確保・増進便益	2,785,073	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	130	
	森林管理等経費縮減便益	22,093	
	森林整備促進便益	47,779	
総 便 益 (B)		17,924,210	
総 費 用 (C)		6,878,964	千円
費用便益比	$B \div C = \frac{17,924,210}{6,878,964}$		= 2.61

網走西部森林計画区的位置図



凡 例	
国 有 林	
主 要 山 岳	
鉄 道	
森林計画区界	
市 町 村 界	
森 林 管 理 署	